

<p>12日 (日)  マタイ 12章</p>	<p>「正義を勝利に導くまで、彼は傷ついた葦をおらず、くすぶる灯心を消さない。異邦人は彼の名に望みをかける」(20-21 節)。人は、善悪に心を向け、神のしるしをもとめてしまうが、主イエスが目を注ぎ続けたのは、神から与えられる一つひとつの命。私たちが命に目を向けて、礼拝を共にささげたいと願います</p>
<p>13日 (月)  マタイ 13章</p>	<p>「ほかの種は、良い土地に落ち、実を結んで、あるものは六十倍、あるものは三十倍にもなった。耳のある者は聞きなさい。」(8-9 節)。主イエスが語るたとえ話。その言葉は、今を生きるわたしたちの身近な出来事に目を向けるように励ましてくださる。聖書を通して主がわたしに呼びかけて下さる声に耳を傾けて</p>
<p>14日 (火)  マタイ 14章</p>	<p>「強い風に気がついて怖くなり、沈みかけたので、『主よ、助けてください』と叫んだ。イエスはすぐに手を伸ばして捕まえ、『信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか』と言われた」(30-31 節)。主イエスと共にいることを確信していても、困難の中では、そのことを忘れてしまう。それでも主は、手を伸ばして、私をとらえて下さる。</p>
<p>15日 (水)  マタイ 15章</p>	<p>「イエスが『子供たちのパンをとって小犬にやってはいけない』とお答えになると、女は言った『主よ、ごもつともです。しかし、小犬も主人の食卓から落ちるパン屑はいただくのです』(26-27 節)。主イエスが良しとしないことでも、主を見つめ続ければ、その祈りを主は聞き入れてくださる。祈りは、主の心も動かすことができる。</p>

<p><b>16日</b> <b>(木)</b></p> <p>マタイ 16章</p>	<p>『それでは、あなたがたはわたしを何者だというのか』。シモン・ペトロが、『あなたはメシア、生ける神の子です』と答えた(15-16 節)。人が何と主イエスを告白しても、それをそのまま自分の言葉として語ることはできない。わたしがイエスを「私の主、メシア」と自分の言葉で告白することを主は喜んで受けてくださる。</p>
<p><b>17日</b> <b>(金)</b></p> <p>マタイ 17章</p>	<p>「もしからし種一粒ほどの信仰があれば、この山に向かって、『ここから、あそこに移れ』と命じても、そのとおりになる。あなたがたにできないことは何もない」(20 節)。日々の生活の中で、主に従う歩みができない時、自分の信仰がからし種一粒と感じる。しかし、主は、そのからし種一粒ほどの信仰を主は励ましてくださる。</p>
<p><b>18日</b> <b>(土)</b></p> <p>マタイ 18章</p>	<p>「あなたがたに言うておく。七回どころか七の七十倍までも赦しなさい」(22 節)。主の語る「赦し」は、一回きりで終わるものではなく、「赦されたこと」「ゆるすこと」をいつも心に留め続けるもの。主イエスの十字架が、わたしたちの罪を赦し続けてくれるものとして与えられていることを心に留めて。</p>
<p><b>19日</b> <b>(日)</b></p> <p>マタイ 19章</p>	<p>「子供たちを来させなさい。わたしのところに来るのを妨げてはならない。天の国はこのような者たちのものである」(14 節)。弱く、保護を必要とする子供たち。強く、競争に勝ち抜き、大物であることを求める大人たち。イエスは子どもの内にこそ、天の国を見る。弱く、小さき者にこそ主の祝福と平安がある。</p>